



きよさと元気直送便

このコーナーでは、まちや地域の元気を生み出す様々な活動に取り組んでいる皆さんをシリーズでご紹介します。

地域に賑わいと笑顔を

のだまゆみ
苺の丘こうも 篠田真弓さん

「新商品開発に今も試行錯誤の繰り返しなんですよ」そう話すのは、『苺の丘こうも』篠田真弓さん（羽衣町第3）。篠田さんは、平成16年に会社を設立以来、業務用苺の生産や苺を原料とした商品の加工販売を行っている。

篠田さんは、お菓子やデザートに使用される業務用苺の栽培・出荷をするところから、事業をスタートさせたという。「最初は、提携会社の圃場や収量の多い農家に泊まりこみで研修したり、専門家の方に指導を仰いだりしながら、一生懸命になつて勉強しましたね」と設立当時の



お話をしてくれた。また、農園で苺栽培を手掛けるようになった篠田さんは、苺が出荷されるときに出る、規格外の苺の量の多さに「もったいない」「なんとかできないだろうか」と感じ、苺の商品加工を思い立ったという。

試行錯誤の末、『苺クレープ』や『苺マフィン』などの商品を開発。小麦粉や卵、牛乳など、商品の原料は道産の中でも良いものを吟味し使用している。「どうせやるのなら、自分達にしか作れないものを目指しました」と篠田さん。昨年には、ビート糖を使用した『苺ジャムビート糖入』がオホーツクブランドの認証を受けた。

また、数年前に浜小清水にオープンさせた夏季限定のスタンドショップ『苺の丘こうも 浜っこ店』も好評。今年3月には、道産小麦を100%使用していることから『麦チエンサポーター店』に認定され、4月29日のオープンに向けた準備を行っている。

篠田さんは「今は、子育ても忙しく思うような活動ができていないのですが、『この地域でしか食べられないもの』を提供することで、他の地域からお客さんが足を運び、オホーツク地域に賑わいと笑顔をもたらすようなお店にしていきたいですね」と笑顔で話してくれた。

編集後記

▲今回は、篠田真弓さんに時間を作ってもらい取材を行った。苺のジュースやクレープ・どれも女性ならではの視点での商品づくり。今も子どもを寝かせた後に、新商品づくりの作業をしているという。▲子育てや家事、写真館などのお仕事をしながらの取組み。脱帽です。▲今後、清里町での出店、期待しています。

人のうごき（平成22年3月末日現在）

人口／計4,577人（-65）

男2,234人

女2,343人

世帯／ 1,862世帯

平成22年5月1日発行 NO. 621
発行／北海道清里町
〒099-4492
北海道斜里郡清里町羽衣町13番地

TEL 0152-25-2131
FAX 0152-25-3571
メール
kysomu@town.kiyosato.hokkaido.jp

HP
http://www.town.kiyosato.hokkaido.jp
携帯電話用サイト
http://www.town.kiyosato.hokkaido.jp/i/

